

わが町をもっと知ろう！

沢渡婦人会が2回目の町内視察

7月19日、沢渡婦人会（谷脇秀美代表・12人）が、昨年11月に続き2回目の町内視察を行いました。

今回も婦人会が計画。9人の会員が参加し、沢渡地域担当職員も同行しました。視察の内容や感想を石井啓子さん（道芝）からお寄せいただきました。

吾川スカイパーク



さわやかな晴天に恵まれた七月十九日。私たち沢渡地区婦人部は、第二回視察研修を行いました。昨秋、主人の定年を機に、Uターンしてきたばかりの私も初参加。

四十三年ぶりに住む故郷は、知らない所ばかり。この日をとっても心待ちにしていた。

当日、町役場の地域担当職

員の方も同行してくださり、まずは吾川スカイパークへ。ここも私は初めてで、中津明神山の斜面を、フワリフワリとパラグライダーが風に乗って飛んでいて、一同「ワー」と大歓声。中に、七十九歳の男性も楽しんでおられ「楽しくてやめられない」と笑って話してくださいました。

ここには、キャンプ場、貸し音楽スタジオ、野外ステージ、貸しロッジなどもあり、係の方が親切に案内してくださり、一同「家族とまた来たいな」「貸しロッジで忘年会もいいネ」などと話しながら、約一時間、高原の風を楽しみました。

「ゆの森」でおいしい昼食の後、次は鳥形山へ。中学生のとき、別枝中学校から歩いて遠足に行ったことがあったけれど、そのころはまだ石灰石の採掘は始ま

ってなくて、本当に鳥の形をしていたよな…。

昭和四十六年から年間千四百万ト余りの良質な石灰石が、露天掘りされているそう。東京ドーム百個分と聞いても想像できないくらいの広さに、全員圧倒されっぱなし。まだ約百年分の石灰石が埋蔵されているそうです。

日本最大の百八十トダンプもかすんで見えるほどの広さ。若い社員の方の説明は、何もかも驚くことばかり。

感動覚めやらぬうちに、次は鳥形山森林植物公園へ。希少な高山植物の宝庫と聞いていて、楽しみにしていました。少し時期が遅かったようで、それでもヤマアジサイがたくさん咲いていました。遊歩道で、気持ちの良い汗を流し、午後三時過ぎ帰途につきました。

離れていたときも、いつも心の中にあり、私を励まして

鳥形山



くれた大好きな仁淀川町。地域の皆さんの仲間に入れてもらいながら、これからも故郷のことをたくさん勉強したいと思います。

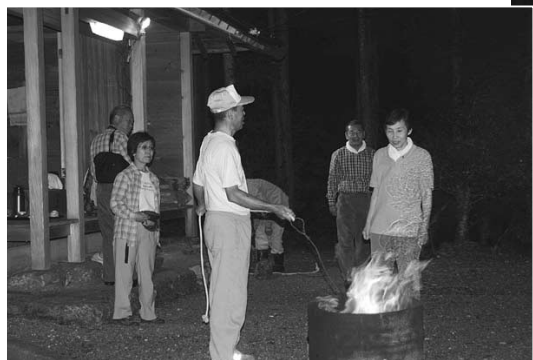
お忙しいなか、ご案内いただいた町役場の方、本当にありがとうございます。

そして、鳥形山鉱山で働いている皆さん、安全第一でこれから頑張ってください。

豊作と家内安全を祈る「火回し」



大勢の人が見物に



たいまつに火をつけて

幻想的な世界に酔いしれて…

八月十五日、先祖の霊を迎え、豊作と家内安全を祈る伝統行事「火回し」が谷山で行われました。夕暮れが近づくとともに、集落内のお大師堂に人々が集まり、まずお神酒が振る舞われた後、たいまつ準備が始まります。たいまつは、松の根を束ね約三層のロープの先に取り付けたものですが、最近松の根の調達に苦労しているとのことでした。

辺りが闇に包まれると、たいまつに火をつけ、火回しが始まります。最初は短く持つて左右に振りながら調子を取り、次第に大きな弧を描くように振り回していきます。

今年も町内外から大勢の人が集まり、ヒューンヒューンと音を立てながら回る炎の輪に歓声を上げたり、カメラやビデオに収めたり、幻想的な世界に酔いしれていました。

平成19年度一般コミュニティ助成事業 森山地区防犯灯整備事業

森山地区会は、平成19年度宝くじ助成事業を受け、地区内18カ所に防犯灯を整備しました。

この事業は財団法人自治総合センターにより、地域コミュニティの健全な発展を図るとともに、宝くじの普及・広報を目的として行われており、皆さんが購入された宝くじの収益金が財源となっています。



宝くじは
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。



直径十七センチ、高さ約一・三メートル。太陽電池でエネルギーを蓄え、最長約十四時間点灯。センサーが周囲の明るさを感じ、自動的に点灯・消灯します。

集落見聞録

(第22回)

ふながた

舟形

三浦克昭さん



舟形では昨年十月ごろから、集落の皆さんが無農薬で栽培した野菜や山菜、お茶やコンニャクなどを量販店に出すようになりました。舟形産の芋を使って、おばあちゃんが心を込めて作ったコンニャクや、香りのよい釜炒り茶などは特に好評です。

「野菜の味がえい、と好評。無農薬だけに、器量じゃない中身で勝負、と思つて販売しています。集落の人には『作れる物は何でも作ってみて。何でも店に出してみよう』と声を掛けています」と話す三浦克昭さん（舟形区長）は、出荷するものの取りまとめや、量販店への配達などをしていきます。



「舟形」ブランドの野菜・山菜

三浦さんは「過疎といわれる割には、人がおる。ここは住みよいところですよ。今後『舟形』ブランドの野菜や山菜がもつと有名になっていくてほしいですね」と笑顔で話していました。

「舟形産」の野菜や山菜 味わってみませんか？

舟形は池川総合支所から車で約30分。7月末現在23世帯、40人の集落です。

向かいの山から見た集落の形が、船のように見えることから舟形という地名がついたということです。



舟形集落

集落の氏神様 鏡神社

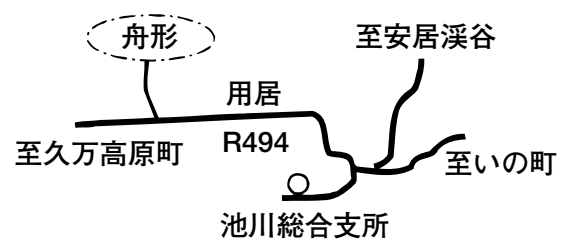
元は倉間谷権現といわれ、くらま谷にありました。ご神体は鏡です。

伝えるところによると、予土往還を通行中の高貴な方が、くらま谷を渡る際に、大切に所持する鏡を落しました。そこは深淵であり、どうしようもすることができず、先を急ぐ旅のため、そのまま心を残しながらその場を後にしました。

鏡は流れて、太郎、次郎、三郎、四郎、五郎の5つの深淵を作りました。

舟形は鏡の沈んでいる淵の上流にあることから、汚いものを洗うとよくないということで、高名の方者を雇って、法力でその鏡をつり上げて祭ったといわれています。

神祭は、7月16日と11月16日です。



鏡神社

町内てくてく山紀行

②

(随時掲載)



— 町内や近隣の山を巡ります。

今回は鶴松森^{かくしようにもり}(一一〇〇メ^{メートル})を登ってみましたー

八月某日、まだまだ残暑厳しい中、仁淀川町の最南端の山、鶴松森を目指しました。鶴松森へは林道仁淀葉山線から津野町との町界を西へ向かうルートもありますが、今回は国道四三九号から町界を東へ向かうルートを登ることにしました。

鶴松森山頂の看板



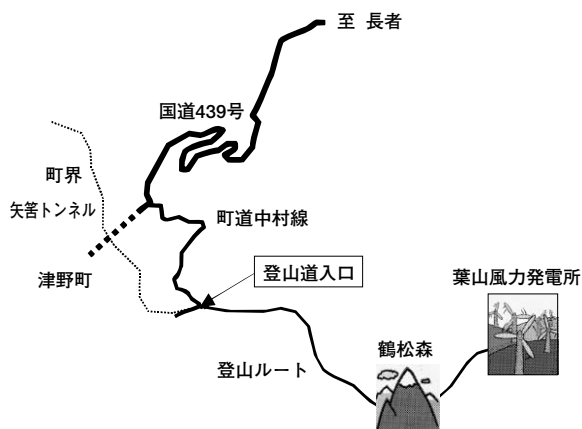
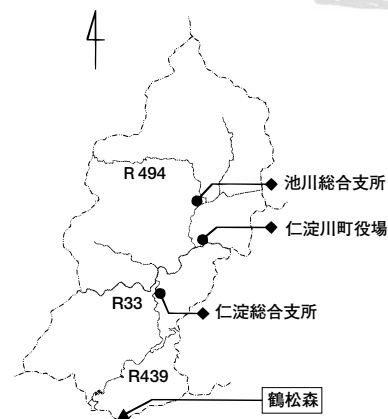
朝の九時に仁淀総合支所を車で出発。国道四三九号を津野町方面へ向かい、町界を貫いている矢筈トンネル入口を左折し、町道中村線に入ります。五分ほど走り九時三十分には登山口に到着。ここからは、鳥形山がはつきり見え、削り取られた山の形は巨大な滑走路のように見えます。待避所に車を止め、簡単に身支度を済ませ九時三十五分に出発。最近開通した林道を十分ほど歩き、いよいよ登山道へ。植林の中に雑木が混ざる林の中を進んで行きます。道中見晴らしはよくありませんが、夏の強烈な日差しを防いでくれます。登山道は分かり易く、案内板や、所々に目印の赤テープもあり迷うことはありません。一時間ほど登り山頂に近づくと勾配が急になり、急勾配と格闘すること二

十分。ようやく山頂に到着。背丈ほどもある萱をかき分け頂上の看板を発見。山頂からの景色は、あいにく霞がかかり遠くまではつきりと見えませんでした。本来なら太平洋まで見通せるはずなので残念。時計を見ると十一時五分。昼食にはまだ早いので、鶴松森から東に伸びる稜線に建っている、葉山風力発電所の風車群を見に行くことにしました。二十分ほど登山道を下りると、風車群の見える展望台に到着。標高千^{メートル}の尾根沿いに並ぶ二十基もの風車群の眺めは壮観。ここで、風車を見ながら昼食。十二時四十分、風を切る風車の羽音に見送られながら帰路につきました。

登山口から望む鳥形山



展望台から望む風車群



仁淀中学校 生徒の自治の力

仁淀中学校では、従来より生徒会が中心となり、プルタブアルミ缶回収を行ってきた。

昨年度は、念願であった車いすと交換することができた。これは保健委員会がプルタブの回収に取り組んだことをきっかけとして始まりました。そして、約十年間かけた地道な取り組みの成果でした。

現生徒会執行部は、自分たちが卒業するまでに、もう一台の車いすに交換し、役立ててもらいたいという強い願いをもって、昨年度後半から取り組んでいます。

本年度に入り、開かれた学校づくり推進委員会でも地域の方に協力をお願いしたり、一斉清掃での回収を呼び掛けたりしてきました。月曜日の朝、中学校の空き缶置き場や玄関に、空き缶を置いていたいているのを何度も見かけるようになりました。

その結果、七月末現在で、約七百キロになりました。車いすとの交換まであと百キロ。生徒会執行部の願いがかなうところまでもう一息です。今後ともご協力をよろしく願います。

生徒が自治の力を高めるためのキーワードは「願い」。生徒会の強い願いが地域や保護者の方々、そして仲間の思いを一つにしているのだと感じます。

生徒会執行部



池川中学校

池川清流まつりに参加

今年も8月11日の清流まつりに、鳴子踊りで参加しました。

夏休み前に3年生の鳴子リーダー4名が踊りの振りを考え、全校生徒に教えました。夏休み中も練習しました。前日には地方車を自分たちで飾り付け、本番に向けての準備はばっちりでした。

当日は生徒会長のシュプレヒコールでスタートし、生徒一人一人が鳴子を鳴り響かせ、よさこい踊りを楽しんでいました。踊りもきれいにそろっていて、練習の成果が表れていました。

町内の方々の声援を受けて、とっても暑かった

けど楽しく踊れました。全員がメダルをもらうことができうれしかったです。地域の祭りを大いに盛り上げることができてよかったです。

9月16日の体育祭でも踊りますので、ぜひ見に来てください。



盛り上がった鳴子踊り

吾川中学校 体験学習

今回は三年生の総合的な学習の時間をご紹介します。

三年生は学習の主題を「福祉」とし「地域の福祉の現状を知るとともに、人とのふれあいを通して、認め合い・支え合い、共に生きる喜びを体験する」を目標として、体験学習を進めてきました。

四月は福祉交流プラザにおける、高齢者疑似体験と車椅子体験。五月はシニアスポーツ交流試合(卓球、ゲートボール、グラウンドゴルフ)に参加し高齢者とのスポーツ交流。六月には湖水園、あがわ荘を訪問しました。七月にはホームヘルパーさんと独居老人宅を訪問し、在宅介護の現場をつぶさに体験しました。

子どもたちの活動のまとめを見ると「人と接して、近づき、話すことによって人の温かさを感じられるということを実感できた」「高齢者が元気で、かえってこちらが励まされた」「人の役に立つことに充実感がある」「高齢者に喜んでいただいたことがうれしかった」「友達が高齢者と接する姿を見て、友達はこの仕事に向いているなと思った」などの感想が寄せられていました。こういった体験を基にして「誰も

* 仁淀高校 *

理科実験教室「小さな生き物たちを見たよ」

8月2日、小学生を招待して、夏休みの課題研究の支援にと理科実験教室を開催しました。

初めての試みであり、近隣の小学生を対象にと、名野川小学校、別府小学校に案内したところ、中学生1名を含む5名の参加をいただきました。

はじめに、肉眼では見えない小さな生物が、身近な水や土の中で暮らしていること、地球の生態系で重要な働きをしていることを学習しました。

その小さな生物たちの存在を確かめることを目標に、光学顕微鏡についての学習、観察、スケッチの仕方、土壌微生物を採集する簡易装置の製作、仁淀川のプランクトンの採取、腐植土から土壌微生物の採取などを行い、それぞれ顕微鏡での観察とスケッチを行いました。

小学生たちには、アシスタントスタッフとして本校の生徒3名が、本校理科教員の指導のもと、顕微鏡操作や器具の取り扱いなどの補助やアドバイスをを行い、小学生が安心して実験に取り組める雰囲気づくりに努めました。

事後の参加者アンケートでは、面白かった、またやって欲しい、ほかの生物も見てみたいなど本教室は大変好評でした。

来年度は内容を含めバージョンアップした企画でご案内したいと考えています。小学生の皆さん、期待しててください。



好評だった理科実験教室



高齢者とのふれあひも

が幸せを実感して暮らすことのできる社会」の実現に向かって、最初の一步を踏み出すことができる子どもたちに成長して欲しいと考えています。

* 池川自然学園 *

一学期が終わって

中学二年 女子

学園に来て三カ月がたちました。春休みが終わり、学園に戻ってくると、皆前みたいにすぐ、話をしてくれて、とてもうれしかったです。

一学期は、いろいろな事がありました。一緒に学園生として生活してきた子との別れ。一緒に遊んだり、勉強し

てきて、とても楽しかった。だからよけいに、別れるのはとてもつらかった。

そして、別れの後には、新たな出会いがありました。短期間だったけど、いろいろな女の子と生活する事ができました。男の子も体験で一人増え、園内生は五人になりました。(池中生は四人)。

六月のまだ少し寒い時に、川に入って遊んだりもしました。寒い思いながらも、皆で水をかけ合いとても楽しかった。

たです。七月の七夕では、高知のおばちゃんたちが来て、一緒に料理をしたり、楽しめました。

勉強では、今までやろうともしなかった数学や英語が出来るようになりました。英語では、少しでも出来るようになるとうれしく、わかるようになるまでやりました。勉強なのにとっても楽しかったです。

そんな中、夏休みまでの日がとても早く感じました。同じ部屋の子とも仲良く出来、

とても楽しかったです。一学期うれしかった事はいろいろな県に友達が出来た事です。たった短期間の間に友達が出来て、とてもうれしかったです。

七月に入り、川に行く事はできなかつたけど、皆で一緒にいるだけで、とてもたのしかったです。

夏休みには、いっぱい思い出を作りたいです。そして、夏休み後にはまた学園でがんばりたいです。今度は、もう少し勉強が出来るようにしたいです。



高知のおばあちゃんと交流

す。最後に皆でした花火はとても楽しかったです。夏休み後また、川へ行きたいです。